

Q 学習サポート事業「やまびこ」の展開は

A 諸機関と連携し、充実に努める

Q 学校教育にICTの導入を

A 慎重な調査のうえで判断したい

鈴木康裕 議員

**「やまびこ」の
今後の展開は**



質問 小中学校の長期休業中の学習サポート「やまびこ」については、既に5年が経過し児童生徒、保護者の間にも十分浸透し、基礎学力の向上、つまずき解消など一定の成果を挙げている。

一方で、小学生は引き続き高い参加率を保っているが、中学生の直近の参加率は約20%と低迷している。

部活動で忙しい子、高いレベルを求める子に「やまびこ」はどの対応するのか教育長に方針を伺う。

教育長 「やまびこ」は学習

習慣を身につけ、学力の確実な定着を目的としている。自宅ではなく、ゆめりあや改善センターで勉強することで、快適な学習環境の中、友人と楽しく勉強できるというメリットがある反面、高学年になると一人で集中して勉強したい、あるいは塾などに通っている等の理由で参加者は減少傾向にある。

本町は文武両道を目指し、部活動を奨励しているもので、運動によって集中力が高まり、学習面にもその効果が期待できると考える。

また、遠くから「やまびこ」に通う子供たちのためにスクールバスの運行も始めた。

中学校では、少人数に分けて習熟度に応じた学習指導を行っているので、一人ひとりに対応した教育が行われていると理解している。

「やまびこ」は、今までの基本方針を踏襲しつつ、関係機関、保護者等の意見を参考に、状況に応じた充実した内容となるよう努めていく。

青田良一 議員

**学校教育に
ICTの導入を**



質問 情報通信技術（ICT）が日進月歩の勢いで進んでいる現状を認識していると思う。

これからの社会を生きる子供を思うとき、学校教育現場もICT環境の整備を急ぐべきと考えるがいかがか。

教育長 小中学校のコンピュータ更新、実物投影機の導入、校務用コンピュータを全教員に配置し、光回線も接続するなど、第2期教育振興計画の目標水準に近い状況にある。

また、教育再生実行会議の7次提言で「1人1台のタブレット」導入がうたわれており、本町にあっても検討すべき事項と捉えている。ただ、先進的な導入を進めた学校で活用

が不十分な事例もあり、慎重な調査を学校とともに行った後、判断したい。

**学習塾利用者
への支援を**

質問 中学生の相当数が学習塾に通っている。学習塾講師を招いた学習会や塾経費の支援をしている自治体もある。

塾への送迎や授業料など家庭負担も少なくないと聞くので、実態を調査し、塾利用者への支援を検討してはどうか。

教育長 中学校では町独自で講師を配置し指導環境の充実を図るほかに習熟度別の指導を実施するなど、全ての子供が希望する高校等に進めるよう取り組んでいる。平成28年度は、学力向上で成果を挙げている先進校に教員を研修派遣し、指導力向上や学校全体のレベルアップに取り組みたい。

また、子供たちの学習習慣や基礎学力の向上に貢献している「やまびこ」への参加も促していきたい。

したがって、現時点での塾支援は考えていない。